

# ・第 1 回改定委員会における意見等への対応方針について

【前回委員会】議事 7-2 第 2 期秋田市住生活基本計画の改定について

番号	意見等	委員会時の回答	対応の方針
1	空き家に関する成果指標について、現在は、空き家バンクの登録数としているが、空き家の母数が減少するに伴って、登録数が減少することが想定されることから、指標を空き家全戸に対する登録数の割合にしたらどうか。	現在、町内会と協力して調査を行っているが、空き家の総数（母数）がかなり大きくなるため、空き家バンク登録数の割合がより小さい数字となる。 <u>指標については現在実施している調査の結果を踏まえて検討したい。</u>	○意見のとおり、現在の空き家バンク登録件数などの件数指標は全体の空き家数に影響を受けるため <u>連続的な評価指標としては不適な面</u> がある。 ○最終的な目的は「空き家の解消」であり、「活用」か「解体」はあくまで手段の問題。本市の空き家対策を評価する指標として、 <u>相談数に対する空き家解消率（売買＋解体）</u> 等を指標とすることを次期計画に置いて検討したい。
2	「指標：高齢者居住住宅の一定のバリアフリー化率（p. 8）」の目標値が高いのではないか。	75%という最終的な目標値は、平成 23 年度の「第 1 期住生活基本計画」から採用されている指標であり、冒頭の部長挨拶にもあった通り、 <u>初期計画を踏襲した計画となっているため、目標値も踏襲している。</u> しかしご指摘の通り、現状と目標値との乖離がみられる。 <u>目標値を変更することは難しいが、少しでも実績値を上げられるような取り組みを、引き続き関係部局と考えていきたい。</u>	○第 1 期計画（計画期間：平成 23 年度～令和 2 年度）の目標を継承しており、指摘のとおり、目標値と実績値に乖離が生じている。 ○本計画期間内で目標値は変更しないが、少しでも目標値に近づけるよう計画に基づく住宅改修費等の支援を継続していく。 ○適切な目標値や評価指標の設定については、次期計画において検討したい。
3	「指標：最低居住面積水準未達率」の数値が感覚と統計数値に乖離があるように感じる。	アパートや持ち家によって居住面積が変わるのはご指摘の通りである。こちらに関しては資料 3（p. 49）の「表 2-19 所有関係別居面積水準の状況」の「最低居住面積水準未達」をみると、持ち家の割合が 0.5%、借家が 14.7%となっており、平均した数値が指標の 4.7%となっている。以上から、 <u>借家が最低居住面積未達率を高めている。</u> 持ち家率の高い本県の場合は、アパート住まいの世帯は小規模であることが想定されるため、高齢者をはじめとした単身世帯が面積水準全体の数値に影響したのではないかと分析している。	○本県（本市）における「持ち家率が高い＝居住面積水準が高い」というイメージと実際の統計数値との乖離に関する意見 ○指標に関しては面積水準が低い借家（アパート等）の存在が影響していると分析している。 ・持ち家率が高い本県（本市）における適切な目標値や評価指標の設定について次期計画において検討したい。

番号	意見等	委員会時の回答	対応の方針
4	<p>「担い手不足」や「技術による省人化」に関する小南委員・谷口委員の意見を踏まえて再検討いただきたい。</p> <p>【小南委員】 担い手不足や省力化施工を解消する特効薬はないと考える。省力化施工であればドローンを活用した高所の点検などは実施しているが、左官業等の特殊技能の継承はDXでの代替が難しい面がある。</p> <p>【谷口委員】 業界として勉強会を開催されているが浸透は進んでいない。 建設技能者の確保等を事業者のみで進めるのは困難であり、市に期待する取組としては補助金制度が望ましい。</p>	—	<p>【担い手不足】 ○人手不足や技術の承継が進んでいない等の意見。 ○<u>企業側への補助金制度の必要性</u>について言及があったが、既存の資格取得補助や企業と人材のマッチング支援に関する施策を本計画へ掲載し推進を図っていききたい。</p> <p>【DX】 ○建設現場におけるドローンの活用など一部にDXの動きは見られるが、業界全体としては<u>活用方法や導入効果を見極めている段階</u>との意見 ○県や業界団体で導入に向けた普及啓発が行われているが、建設・産業分野の要素が強く、市としての取組は現状なし。本計画にて推進する段階の課題ではないと判断し、<u>計画への反映は見送り</u>としたい。</p>
5	<p>高齢者へのデジタル化については、まずデジタルは便利であるということを普及させる必要がある。</p> <p>また、「健康管理のDX化」など高齢者が便利に安心して生活している姿を若者に見せられるような住環境の整備を進めることで、若者の定住につながるのではないか。</p>	—	<p>○意見のとおり、まずは<u>デジタル化の利便性について普及を進めるのが先決</u> ○その普及の方法として「健康管理のDX化」など、利用者となる高齢者にとってメリットがある取組が有効 ○高齢者の見守りに関する施策であり福祉分野の要素が強く、普及もこれから。本計画で推進する段階の課題ではないと判断し、<u>計画への反映は見送り</u>としたい。</p>
6	<p>人手不足・労働者不足が社会問題になっているが、外国人労働者についても検討してはどうか。秋田市では外国人労働者の住まいの確保が出来ないといった問題が起きている。</p>	事務局で検討していく。	<p>○人材不足については「<u>外国人材受入支援事業</u>」等を本計画へ掲載する形で推進を図っていく。 ○外国人労働者の住まいの確保に関しては、「<u>外国人の民間賃貸住宅入居円滑化ガイドライン</u>」の周知について計画へ掲載することで反映する。</p>
7	<p>カーボンニュートラルに特化して促進するのではなく、バリアフリーやデジタル化と絡めて進めていくことが良いのではないか</p>	—	<p>○「カーボンニュートラル」というフレーズがひとり歩きしないよう、市民目線での推進が必要との意見 ○既存の住宅評価制度（長期優良住宅、低炭素住宅等）や住宅補助制度等を推進するなかで、環境配慮の重要性について広く推進してきたい。</p>

番号	意見等	委員会時の回答	対応の方針
8	<p>中古住宅として流通している空き家は、若者の住まいのニーズに合わないものが多い。また、旧耐震のものが多く、お金をかけて改修して住みたいと思う人がいない。一方で、空き家の所有者は空き家を解体したがない傾向がある。</p> <p>秋田市として中古住宅の流通について検討する必要がある。</p>	—	<p>○立派で大きい住宅をそのまま売りたい「売り手」とコンパクトで手頃な住宅を求める「買い手」のミスマッチが中古住宅市場停滞の原因であるとの意見</p> <p>○<u>ミスマッチそのものを解消するのは困難だが、既存の空き家バンク制度で幅広いニーズを持った買い手に情報提供を図るほか、空き家定住推進事業で買い手好みの改修等を支援することで、引き続き中古住宅の流通を促進していく。</u></p>

意見等への対応に伴う計画内容の変更（住生活基本計画P93,94）

変更前（R7.8.28\_第1回改定委員会時点）

青字：第1回改定委員会時点で修正していた部分  
赤字：第1回改定委員会後に修正した部分

【目標1】安全・安心に暮らせる住まい・まちづくり

- 近年、全国的に激甚化・頻発化している水害や土砂災害等の自然災害に対応し、市民の誰もが安心して暮らし続けられるよう、住宅の耐震化等の確実な実施のほか、災害の発生が懸念される地域に対する必要なハード・ソフト対策の促進により、災害に強い住まい・まちづくりを目指します。
- 活用等が考えられない空き家については、除却等も視野に入れた適切な空き家対策を促進するなど、倒壊や犯罪の危険に備えるとともに、住宅地や住宅の防犯性の向上に向けた取組の推進により、犯罪を未然に防止できる住まい・まちづくりを目指します。

【目標2】誰もが快適に住み続けられる住まい・まちづくり

- バリアフリー化やリフォーム等による住宅の質の向上により、高齢者、障がい者および子育て世代等の誰もがそれぞれのニーズに応じて安心して暮らすことができるよう、多様な世代が快適に暮らせるマイエジブレンドリーシティを実現する住まい・まちづくりを目指します。
- 子育て世代や高齢者世代等の共生により、多様な世代が安心して暮らせる環境の形成のため、多世代の同居や近居のための支援などにより、ライフスタイルに応じて快適に暮らせる住まい・まちづくりを目指します。
- 既存マンションの適切な維持管理を図るとともに、住宅確保要配慮者に対するセーフティネットの確実な確保に向けて、市営住宅の適切な維持管理や民間賃貸住宅の活用等の推進など、既存住宅を活用して多様なニーズに対応した住まい・まちづくりを目指します。
- 住生活産業の担い手不足解消に向けて、人材の確保や育成を支援し、地域を支える住生活産業の担い手確保による持続可能な住まい・まちづくりを目指します。

内容を統合

【目標4】「環境立市あきた」を実現する住まい・まちづくり

- 環境に配慮した社会の実現に向けて、新エネルギー設備の導入等による住まいの省エネ化や長く住み続けられる住宅の整備促進等により、カーボンニュートラルを実現する住まい・まちづくりを目指します。

自然と都市が調和した

【目標5】社会環境の変化に対応した秋田らしい住まい・まちづくり

- 豊かな自然・歴史・文化等の地域資源を活かして、多様な主体との協働による景観まちづくり等の推進を行うとともに、交流人口等の拡大に向けて、好きなタイミング・場所で住まいを自由に選択できるサービス等を活用した多様な住まい方を実現する住まい・まちづくりを目指します。

掲載取止め  
(意見5関係)

~~人口減少や高齢化に伴い、生産年齢人口が減少する中で社会経済の変化に対応し、持続可能な社会の実現に向けて、「人に優しいデジタル化」による市民一人ひとりに寄り添った豊かな社会の実現を目指します。~~

- ~~住宅産業の就業者数の減少や、高齢化等の問題解決に向けて、住生活産業の後押しや就労環境改善の促進等により担い手不足を解消し、地域を支える住生活産業の振興を目指します。~~

記載箇所を変更  
(意見4、6関係)

【目標3】地域のなかで住み続けられる住まい・まちづくり

- 各地域の中心となる拠点地域の良好な住環境の形成や都市機能の誘導等による魅力的なまちなかの形成を図り、定住促進や住み替えニーズ等に合わせた居住の誘導などにより、多核集約型コンパクトシティ形成の実現に向けた持続可能な住まい・まちづくりを目指します。
- 今後のさらなる人口減少や高齢化に伴い、郊外部等を中心に地域コミュニティの維持が困難となる地域の発生が懸念されることから、生活サービス機能の維持・確保や、拠点地域までの確実な移動手段を確保するほか、多世帯同居・近居や二地域居住等の促進により、市民それぞれが選択した地域のなかで住み続けられる住まい・まちづくりを目指します。
- 本市には利活用が可能な良好な状態の空き家が多く存在することから、空き家を中心とした低未利用地の有効活用のさらなる促進により、都市のスポンジ化対策を推進する住まい・まちづくりを目指します。

変更後（R7.11.20\_最新版）

赤字：最終的に現計画から変更となる部分

【目標1】安全・安心に暮らせる住まい・まちづくり

- 近年、全国的に激甚化・頻発化している水害や土砂災害等の自然災害に対応し、市民の誰もが安心して暮らし続けられるよう、住宅の耐震化等の確実な実施のほか、災害の発生が懸念される地域に対する必要なハード・ソフト対策の促進により、災害に強い住まい・まちづくりを目指します。
- 活用等が考えられない空き家については、除却等も視野に入れた適切な空き家対策を促進するなど、倒壊や犯罪の危険に備えるとともに、住宅地や住宅の防犯性の向上に向けた取組の推進により、犯罪を未然に防止できる住まい・まちづくりを目指します。

【目標2】誰もが快適に住み続けられる住まい・まちづくり

- バリアフリー化やリフォーム等による住宅の質の向上により、高齢者、障がい者および子育て世代等の誰もがそれぞれのニーズに応じて安心して暮らすことができるよう、多様な世代が快適に暮らせる住まい・まちづくりを目指します。
- 既存マンションの適切な維持管理を図るとともに、住宅確保要配慮者に対するセーフティネットの確実な確保に向けて、市営住宅の適切な維持管理や民間賃貸住宅の活用等の推進など、既存住宅を活用して多様なニーズに対応した住まい・まちづくりを目指します。
- 住生活産業の担い手不足解消に向けて、人材の確保や育成を支援し、地域を支える住生活産業の担い手確保による持続可能な住まい・まちづくりを目指します。

【目標3】地域のなかで住み続けられる住まい・まちづくり

- 各地域の中心となる拠点地域の良好な住環境の形成や都市機能の誘導等による魅力的なまちなかの形成を図り、定住促進や住み替えニーズ等に合わせた居住の誘導などにより、多核集約型コンパクトシティ形成の実現に向けた持続可能な住まい・まちづくりを目指します。
- 今後のさらなる人口減少や高齢化に伴い、郊外部等を中心に地域コミュニティの維持が困難となる地域の発生が懸念されることから、生活サービス機能の維持・確保や、拠点地域までの確実な移動手段を確保するほか、移住・定住や二地域居住等の促進により、市民それぞれが選択した地域のなかで住み続けられる住まい・まちづくりを目指します。
- 本市には利活用が可能な良好な状態の空き家が多く存在することから、空き家を中心とした低未利用地の有効活用のさらなる促進により、都市のスポンジ化対策を推進する住まい・まちづくりを目指します。

【目標4】「環境立市あきた」を実現する住まい・まちづくり

- 環境に配慮した社会の実現に向けて、新エネルギー設備の導入等による住まいの省エネ化や長く住み続けられる住宅の整備促進等により、カーボンニュートラルを実現する住まい・まちづくりを目指します。

【目標5】自然と都市が調和した秋田らしい住まい・まちづくり

- 豊かな自然・歴史・文化等の地域資源を活かして、多様な主体との協働による景観まちづくり等の推進を行うとともに、交流人口等の拡大に向けて、好きなタイミング・場所で住まいを自由に選択できるサービス等を活用した多様な住まい方を実現する住まい・まちづくりを目指します。